

# ポジティブ生徒指導における修復的实践（1）

ーゼロトレランスは克服できるか

教職センター 宇田 光

## 目次

はじめに

### I 修復的实践とは

- 1 修復的司法と修復的实践（RP）
- 2 心理学的な位置づけ
- 3 修復的な実践の方法

### II ポジティブ生徒指導としての RP

- 1 ゼロトレランスとポジティブ生徒指導
- 2 PBIS と RP
- 3 日本における RP

### III RP の具体例と効果

- 1 具体例
- 2 RP 導入の効果

おわりに

注、文献、資料

米国の学校では近年、罰に頼らないポジティブ生徒指導が注目され広がってきている。ポジティブな行動の介入と支援（PBIS）や、修復的实践（RP）などである。修復的司法（RJ）と呼ばれる考え方を、学校教育の現場に取り入れたのが、修復的实践（RP）である。RPの啓発を進める国際組織は、RPとは「人間関係とコミュニティの科学である」と称している。RPでは、サークルと呼ばれる加害者と被害者を含む会合をおこなう。しかし、もたらされた被害を「修復する」以前の、予防的・開発的な働きかけをも含む実践となっている。本稿では、RPの導入されてきた経緯や、そのもたらす効果に関するこれまでの研究概要を述べて、その意義を検討した。

本論文で用いている略称の一覧

IIRP： 修復的实践のための国際組織

PCA： パーソン・センタード・アプローチ、人間中心アプローチ

PBIS： ポジティブな行動の介入と支援

PBS： ポジティブな行動の支援

RJ： 修復的司法

RP： 修復的実践

ZT： ゼロトレランス、寛容さゼロ

はじめに

司法の場で、犯罪被害者が加害者と向き合う機会を設ける動きがある。被害者や影響を受けたコミュニティの権利を守ると同時に、加害者の更生も助けようという運動で、修復的司法（RJ）と呼ばれている。そして、このような考え方を学校の生徒指導に取り入れたのが、修復的実践（RP）である。

米国では1980年代以降、主に学校安全の目的で、「ゼロトレランス」と呼ばれる政策が規律指導に適用されてきた。しかし、近年ではこのため停学になる生徒が増え、貴重な教育機会を奪っていると批判されてきた。そこで、ポジティブな行動の介入と支援（PBIS）や修復的な実践などポジティブ生徒指導が注目され広がっているのである。

本稿ではまず第一に、RPという概念やその学校への導入に至る経緯を述べて、理論的な位置づけを考察する。第二に、ゼロトレランスの問題点が多数指摘される一方で、関心が高まるポジティブ生徒指導の中で、PBISと並びRPが存在感を示していることを見ていく。また、日本で提案されているRPに相当する方法にもふれる。第三に、カリフォルニア州のRPガイドブックやミネソタ州での具体的な実践などを紹介して、RPの効果を含めた検討をする。

なお、本稿ではRJ、RPなど多数の略称が登場してくる。そこで、冒頭には主な言葉の一覧を掲載した。

## I 修復的実践とは

### 1 修復的司法と修復的実践（RP）

修復的アプローチは、司法の領域で注目されてきた Restorative Justice（RJ）が元となっている。その直訳は「修復的司法」だが、修復的正義と訳されることもある。学校でおこなう実践では、「修復的アプローチ」「修復的な対話」（山下ほか、2011；鈴木・鈴木、2018）などとなる。学校における修復的対話の歴史は比較的浅く、1990年代中盤以降（山下、2011）という。司法の場からは外れるので、Restorative Practices（修復的な実践）と言われることが多い。そこで以下では、RPと略している。ただし学校での実践であっても、修復的司法と言っている場合のみ、原典に従ってRJと標記している。

現代の司法制度（刑事裁判）は、被害者への配慮を欠いていると指摘されてきた。被害者が加害者に対して直接的に質問したり、気持ちを伝えたり、弁償を訴えたりする機会がない。かといって、江戸時代に行われた「仇討ち」のような私刑は、もちろん許されない。

加害者の人権が守られる一方、被害者の権利が不当に奪われている、という不満がくすぶってきた。

そこで、2008年に被害者参加制度が誕生するなど、司法制度改革が試みられてきている。そして、被害者が加害者らと直接向き合って対話する機会を設けて、被害者や影響を受けたコミュニティの権利を守ると同時に、加害者の更生も助けよう、というのがRJである。この発想が、学校の生徒指導に入ってきた。例えば、いじめた子には、いじめられた子との対話を通じてそのつらい気持ちを理解させ、償いをさせる（ワクテル、2005）。また、何らかの損害を起こした子は、奉仕作業（修復）をして責任を取ってもらう。例えば、学校で窓ガラスを割った子は、その修理代に匹敵するアルバイトをする。つまり、壊れた人間関係の修復と同時に、物理的な損害の修復の意味がある。しかし、「修復」という言葉からは素朴に「元に戻す」という狭い意味だと誤解されやすい。以下に見る通り、実は学校でのRPは予防的・開発的志向も強く、より幅広いアプローチなのである。

さて、RJの原点とされるのが、マオリ族の伝統的な紛争解決のあり方<sup>(注1)</sup>である。ニュージーランドでは1990年代、学校での停学者が急増した。そこで「停学者低減計画」が実施されるに至り、停学者数が減少あるいは横ばいとなっていく。それでも、マオリ族や男子における停学の比率は高いままだった。そこで1998年、教育省はマオリ族の伝統にならったRJを一部の学校に試験的に導入する。この結果、参加者の満足度が高いことが判明。以後、国内外に広まっていった（Drewery, 2004）。

イングランドの学校におけるいじめ防止プログラムの利用実態とその効果を、ロンドン大学が総括的に調査している。その報告書では、修復的アプローチを次のように評価している。「修復的アプローチは、特に中等教育では大多数の学校で用いられている。その満足度は、5段階で4.18である」（Thompson & Smith, 2011）。「何らかの修復的アプローチが、いじめ事件に対処するために、2009-2010年までに69%の学校で使われていた」（スマイス、2016）。なお同じ調査で、92%の学校が、何らかの直接的処罰を用いていることが明らかになっている。

米国内においても、RPは盛んに行われている地域がある。学区、市、あるいは州単位で取り組む所も出てきている。後述のミネソタ州での例などである。

## 2 心理学的な位置づけ

RJの初期における実践を支える理論は、犯罪学や社会学の領域から生まれたものだという（Evans & Vaandering, 2016）。教育や心理学の領域での今日のRPを、どういう枠組みで捉えると良いだろうか。

### ・人間科学としてのRP

RPは世界各国で導入されており、国際組織もできている。International Institute for Restorative Practices（修復的実践のための国際組織、IIRP）は、本部をペンシルベニア州の

Bethlehem に置く NPO である。北米だけではなく南米、ヨーロッパ、オーストラリアにも拠点がある。元米国の中学校教師であったワクテル (Ted Wachtel) が、1999 年にこの IIRP を創立した。ウェブページには、RP の理想でコミュニティ自体を変えていこうという壮大な展望が掲げられている (注<sup>2</sup>)。

IIRP では RP とは「人間関係とコミュニティの科学である」と位置づけられている。大学院が設置されており、修士号も取れる (2019 年の修了者を含め、既に 208 名の修士号を出している)。なお、RP は A Science of Human Dignity (人間の尊厳の科学) である、とも言っている。学会も 1998 年から主催していて、2020 年は 10 月にワシントン州ベルビューで開催の予定である。

#### ・人間性心理学との接点

RP は元々司法の領域で生まれて、学校教育などでも取り入れられるようになった。では、RP はどういう教育的効果を期待できるのだろうか。

IIRP では、子どもたちが感情を積極的に表出することで、精神の健全な発達につながり、それが学校の雰囲気改善にもつながっていく、という効果を想定している (Acosta, Chinman, Ebener, Phillips, Xenakis, & Malone, 2016)。感情の表出がもたらす効果は複雑だから、これはやや楽観的な仮定にみえる。

心理学的な理論と RP とのつながりはどうか。RP は、人間中心アプローチ (PCA) と教師学 (TET)、社会性と情動の学習 (SEL) など、数多くの心理学の理論や技法との接点をもっている。特に PCA とは、強く関わるものと言えるだろう。

例えばシカゴ公立学校区の修復的アプローチのガイドブック※を見ると、PCA がその基礎にあることがわかる。参加者の基本的な構えとして、次に述べる「修復的な問いかけ」と並び、共感的に聴くとか私メッセージなどが大切である、と書かれているのである。

※ [https://blog.cps.edu/wp-content/uploads/2017/08/CPS\\_RP\\_Booklet.pdf](https://blog.cps.edu/wp-content/uploads/2017/08/CPS_RP_Booklet.pdf)

### 3 修復的な実践の方法

学校で行われる RP には、地域や学校の実情に応じて実に多様な取り組みがある。とは言え一般的で特徴的な取組がいくつかある。以下に概略を示す。

#### ・修復的な問いかけ

生徒が問題を起こして面談した時、教員は次のような質問をする (Arcadia 学区<sup>注3</sup>)。

- |  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・何があったの？</li><li>・その時、どう考えた？</li><li>・それから今まで、何を考えた？</li></ul> |
|--|

- ・あなたのした事で、誰がどうなったの？
- ・元通りにするために、どうすればいいと思う？

### ・サークル

RP でなされる会合は、「（対話）サークル」あるいは「カンファレンス」と呼ばれる。司法の場（RJ）では、加害者と被害者を含む会合になる。一方、学校では、RJ 同様の会合（平和サークルなどと呼ぶ）もあるが、より開発的、予防的な取り組みも日常的になされる。人間関係や学級雰囲気改善、問題の予防を目的とするサークルである。学級全員で文字通り輪になって座り、対話する。

シカゴ公立学校区での、学内停学中の生徒などが参加するサークルの手順は次の通りである。1) ペアで打ち解けるための活動、2) 「敬意」の意味は？ 自分が「尊重された」と感じた時は、「尊重されていない」と感じた時は、など考える。3) 「今日、あなたがこの場にいる理由は？」 「誰が影響を受けたの？」・・・など。（巻末に、サークルの進め方を記載している。）

## Ⅱ ポジティブ生徒指導としての RP

### 1 ゼロトレランスとポジティブ生徒指導

米国の生徒指導における代表的な枠組みが、ゼロトレランス（ZT）である。これは、文字通り「寛容さゼロ」で、どのような小さな違反も見逃さずに、例外なく罰則を与えていくという規律指導である（加藤、2000、2009；宇田、2016a、2019）。あらかじめ生徒ハンドブックで定められたルールによって段階的、累積的に指導することや、オルタナティブスクールなどの仕組みを合わせた実践である。この政策は、親からは強い支持を得てきた（宇田、2019）。そして現在でも米国では、多くの学校で ZT が用いられている。しかし、停学になる生徒が多くて教育機会を奪う問題に加えて、停学者の比率などが人種間で明白に異なっていることも指摘されている。さらには、その効果自体が疑問視されている（Skiba, 2000）。

教育省は近年、その指針で「ZT は柔軟性に欠けており、適切な処分が選択できない可能性がある」と指摘した（U.S. Department of Education, 2014）。そして、「指導的なアプローチ」を取って、適切な行動を引き出すよう求めている。その例として RJ を挙げて、停学や退学といった排除的な方法よりも効果的ではないかと示唆した。

米国教員連盟（AFT）会長は、「ZT は安全と秩序を確保する目的であったがそれには失敗し、むしろ深刻な害をもたらした（Weingarten, 2015）」と述べた。ZT を採用してきたことを、自己批判したのである。

こうして、よりポジティブで、予防的な取り組みが模索されている。代表的なものが PBIS

(宇田、2016b) や、RP である。図 1 では、ゼロトレランスを RP と対比している。こう対比すると両者は水と油に見えるが、実際には両者を併用する学校も多い。図の上半分が「修復的実践による教育」、下半分は「ゼロトレランスによる教育」である。上半分では順に、①「教員が生徒を歓迎してくれる」、②「教員はカルロスの勉強を助け、スクールカウンセラーとの面談を手配する」、③「ピアメディエータが事態を收拾する」、④「カルロスは休み時間にカフェテリアを掃除する」となっている。

下半分では順に、①「金属探知機と警官に歓迎される」、②「カルロスは皆の前で叱られる。口答えをしたら居残りを命じられた」、③「けんかしたら学校警官に逮捕された」、④「カルロスは逮捕歴がつき、停学にされそうである」。

なお、竹原 (2018) がゼロトレランスなどと RP との関係を詳しくまとめている。

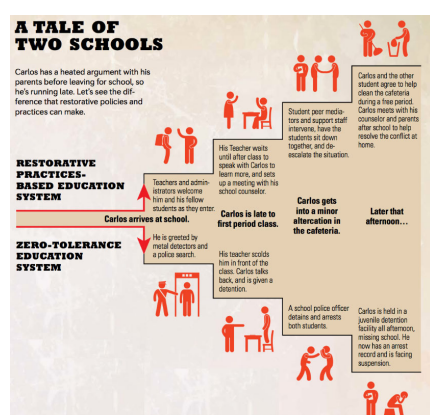


図 1 「2校の物語」 修復的実践とゼロトレランスとの対比 (Flannery, 2014)

## 2 PBIS と RP

PBIS (Positive Behavior Interventions and Supports) とは、「ポジティブな行動の介入と支援」である。PBS (ストーモントラ, 2016) と呼ばれる場合もあるが、ほぼ同じものである。罰を用いるゼロトレランスとは違い、ポジティブな行動を指導し、認める予防的・開発的な実践を重視する。全生徒を対象とするティア 1 から少人数を対象とするティア 2、個別指導のティア 3 までの、多層的なしくみとなっている。筆者たちは PBIS を「ポジティブ生徒指導」と呼んできた (宇田、2016b; 宇田ほか、2016)。固い直訳より、わかりやすいからである。ただ、PBIS は学力向上も大きなねらいとしているので、厳密にはより広い枠組みである。

PBIS と同様、RP も広い意味で「ポジティブ生徒指導」の枠組みで捉えて良いだろう。好ましい行動に注目すること、あるいは互いの気持ちを率直に伝え合う会合をするなど、ポジティブに良い所を伸ばそうとする点は共通している。PBIS と RP とを統合、あるいは PBIS の枠組みに RP を取り込む動きもあり、実際に両者を併用している学校もある

(Mooiman, 2019)。

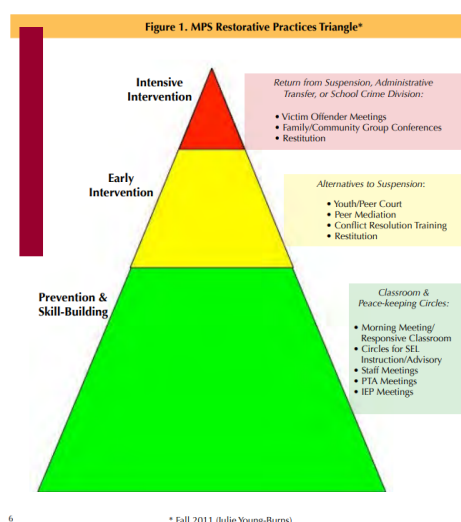
では PBIS と RP とでは、何が異なるのか。まず、PBIS では、その名前通りに「行動」に注目する。これに対して、RP は「感情」の表出を引き出す対話を強調している（山辺、2011）。このような対比の観点は、ポジティブ生徒指導の理論を構築していく上で、特に重要であろう。

また、RP ではネガティブな感情も扱う点で、純粋にポジティブ生徒指導と呼べないのではないかと、との疑問もある。しかし、ネガティブな事項は必ずその裏にポジティブな面を持っている。マイナス面を反転させて扱うポジティブ・リフレーミングの手法など、工夫が必要なかもしれない。特に怒りや復讐心など強い感情の処理方法は、重要な課題であろう。

RP も、PBIS と同様に、ティア 1 からティア 3 の 3 層構造で示されている場合がある。例えば、シカゴ学区の上述ガイドブックでは、次のようになっている。（ティア 1 が予防的な取り組み、ティア 2 以降はより高いニーズのある生徒へのサポートである。）

- ・ティア 1： 全生徒を対象として、学校の修復的な雰囲気をつくる。  
（RP とは何か、サークルでは何をするのか、など基礎を教える。）
- ・ティア 2： 一部の生徒を対象として、修復的な生徒指導をおこなう。
- ・ティア 3： 少数の生徒を対象として、復帰指導と修復的な治療をする。

また、ミネソタ州の RJ ガイドブック<sup>(注4)</sup>には、三角形（図 2）が登場する。RJ の図だが、PBIS と同じ二つの 3 層構造である。なお、PBIS では黄色、赤色にそれぞれ 15%、5%などと対象となる生徒の割合を示す数字が入る（ストーモントら,2016）が、この図にはない。



### ティア 3 集中的介入

被害者と加害者の会議、家族や

コミュニティとの会議、弁償

### ティア 2 初期の介入

仲間裁判、ピアメディエーション

葛藤解決訓練、弁償

### ティア 1 予防と技能の学習

サークル、スタッフ会議、

PTA 会議など

図 2 RP の 3 層構造 (ミネソタ大学、2013)

RJ の効果としては、同報告書には次の通り書かれている。

生徒の向社会的価値、権威者への敬意、責任を負うこと、学校が安全だという認識、セルフエスチームの向上。一方、再犯の減少。ミネソタ州による RJ のガイドは、各種の書式も充実していて参考になる。例えば、次の書式は、サークルの参加者に対する質問項目である<sup>(注5)</sup>。

### サークルの参加者による評定の書式

予想していたような内容でしたか？／ 安心して会に参加できましたか？

事件のことがより理解できましたか？／ 尊重されましたか？／公平になされましたか？／いい計画が作れましたか？／この子はより安全になったでしょうか？

## 3 日本における RP

日本の学校では伝統的に、「学級づくり」が重要視されてきた。PISA (2015 年) では、初めて「協同問題解決能力調査」が行われて、日本は OECD 加盟国 (32 か国) 中 1 位になった。また、学級雰囲気も OECD 諸国でトップクラスである (笹尾・宇田、2019)。RP を実施する土台自体は、日本の学校文化に既に根付いているとみるべきであろう。

PBIS は好ましい行動を「強化」という点で行動主義的であり、現場からは反発もみられる。その一方で上述の通り RP は、人間性心理学をベースとする実践と位置づけられる。このため、日本の学校文化ではより受け入れやすいかもしれない。PCA と関連の深いグループ・エンカウンターや SEL などの実践が既に盛んになされている。

児童生徒間でのトラブルを対話で解決する方法は、日本国内でもいくつか提唱されている。有門 (2009) の提唱した「ピア・リンク・ミディエーション」、あるいは平墳 (2014) のこども裁判などは、いずれも RP (ティア 2) に相当する実践と言える。

学校経営の方針として、「RP あるいは RJ を採用する」ことを表明している学校も出てきている。例えば東京都台東区立駒形中学校の H30 年度経営計画では、「健全育成」の具体的方策を列挙している。その中で、次のように RJ の利用を謳っている。・・・「修復的対話・RJ サークル」を実践することにより、生徒同士のより望ましい人間関係を構築する。

## III RP の具体例と効果

### 1 具体例

#### ①カリフォルニア州オークランドの高校での修復的アプローチの実践

問題を起こした子どもやその被害者を含めた会合の様子を、Bazelon (2019) が紹介して



いる（「オークランドが修復的な方法で若者に正しい道を示す」）。RJOY という非営利の団体が主催。人々がその子の復帰を支えていく活動である。問題を起こした生徒を学校から排除するのが ZT なら、この会合は学校への復帰を目標に掲げている。

16 歳のセドリックが学校に銃を持ち込んだ結果、10 か月の停学となった。復学の条件として修復的司法のサークルに参加し、他の参加者たちの前で語る様子を描写している。

校長、心理学者、教員、ピアのメンターらが参加。人形などの目印を順に手渡していき、それを持っている人だけが話すことができる、というルールで進む。互いに率直に語ることが大切である。

周囲の人が、どれだけセドリックのことを心配しているか、立ち直ってもらいたいと考えているか、を伝えることが強調されている。この会合は最後に、セドリックの今後の人生設計について考えて終わる。

修復的アプローチの成果として、停学が急減して、学力は向上したとしている。一方、この方法は手ぬる過ぎ、最悪の問題児が他の人を傷つけても大丈夫だと思ってしまう、という反対論もある。

## ② シカゴ公立学校区の RJ

次に、サークルで困った時の対策や質問例などを、シカゴ公立学校の RJ ガイドブック（上述）から示しておく。

### サークルで困った時の対策（p. 78）

自由に話し合う場であるサークルで、行き詰まったとき、ファシリテーターはどうか。よくある問題のある場面が紹介され、対策が書かれている。

#### ・誰も話をしない時

→ 絵を描くなどの別の方法を試してみる、身近な話題を出す、「若者について大人にわかってもらいたいことは何？」など、話したくなることを質問してみる。

#### ・家族のプライベートな話とか自殺、麻薬の話などを生徒がしてしまう。

→ この場では何を話題にしているか、を明確に伝える。自分や周りの人の安全のために、ここで話した内容を秘密にするという約束にも制限があることを、明確に伝えておく。

### 「平和サークル」での質問例（p. 80）

平和サークルとは、加害者と被害者との対話である。以下には、その場でファシリテーターが行う質問例が列挙されている。

#### ① 加害者に

何があったの？／ その時、どう考えてたの？

事件の後、何を考えたの？／ あなたの行動で誰が影響を受けたと思う？

② 影響を受けた人たちに

その事件の時、どうしたの？／ どう感じたの？

一番大変だったことは何かな？／ 親や友達に事件を聞いてどうだった？

③ 被害者に

被害を回復するには何が必要？

この質問への回答は加害者や他の人たちと話し合います。・・・ 以下略

## 2 RP 導入の効果

RP を学校で用いることで、どのような効果が期待できるのか。ここではまず、英国での教員の面接調査結果を紹介する。McCluskey et al.(2008)は、スコットランドで実施された面接調査を元に、RP を実践した教員の共通する悩みをまとめている。それによると、教員が現在用いている規律指導の方針<sup>(注6)</sup>と、RP との間での調整が難しいという。つまり、従来の罰を用いる方法と、RP に見られるような「ソフトな」やり方との間での葛藤であろう。

次に、既に紹介したカリフォルニア州オークランドのデータを見てみよう。オークランド学区 (OUSD)にある Cole ミドルスクールでの実践である。この学校では RJ を 2007 年に全校で導入した。生徒たちが自ら RJ を主導するなど、積極的な活用が進んだ。

この結果、停学者は 87%低下し、退学者はゼロになった。図 3 は 2004 年度から 2008 年度までの推移で、左が停学者数、右が退学者数（ともに 100 人あたり）。上で始まる線が Cole ミドルスクール、下の濃い線が OUSD である (Sumner ら,2010)。

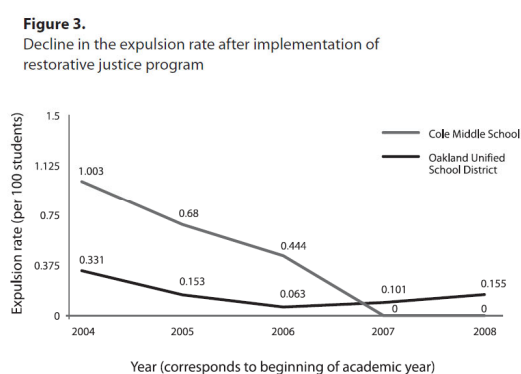
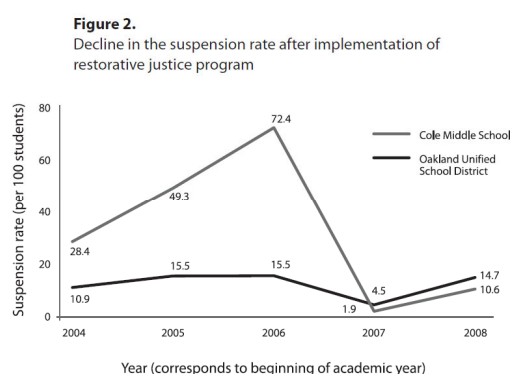


図 3 Cole ミドルスクールにおける停学・退学者数の推移 (Sumner ら,2010)

RJ 導入前に Cole ミドルスクールは、学区全体と比較して停学・退学ともに 2 倍以上ある。よって、「荒れていた本校は、2007 年に RJ を導入した後、地域の他の学校の平均的

なレベルに落ち着いた」と要約できるだろう。

最後に、近年 RAND 研究所が、ランダム化比較 (RCT)による RP の効果実験を初めて 2 件実施した。まず第 1 のメイン州での研究 (Acosta et al., 2016) では 2 年間、州内にあ  
る 14 校のミドルスクールのうち 7 校が RPI<sup>(注7)</sup> 実施校、7 校が非実施校にランダムに割  
り当てられた。しかし、期間中 RP をより多用したと事後に回答した実施校教員は 3 分の  
1 に留まり、生徒の RP を受けた認識にも両群間で差が出なかった。また、学校雰囲気や  
停学率など結果にも有意差はなかった(Acosta, 2019)。第 2 に、より大規模な研究

(Augustine, Engberg, Grimm, Lee, Wang, Christianson, & Joseph, 2018) がピッツバーグ  
でなされた。ここでは、州の公立学校区 (PPS)内の 44 校を実施校と非実施校とにランダ  
ムに割り振って、22 校に IIRP の監修するプログラム (現地では PERC と呼ばれた) が、  
2 年間にわたって実施された。この結果、PERC 実施校のほうが教員の評定による学校の  
雰囲気が良かった。また、停学率も有意に低下し、特に小学校での低下が目立った。オル  
タナティブスクール送りとなる児童生徒数も減少した。

ただ一方で、児童生徒の認識する教員の学級経営能力が、PERC 実施校ではより悪かっ  
た。また学力の改善が見られず、中でも 7-8 年生では、学力が低下するなど、ネガティブ  
な影響も見られた。このように、RP のポジティブな効果が明らかになった一方で、学力向  
上にはつながらなかった。この複雑な結果から、IIRP が構築した RP のモデルを現状で強  
力に推奨することはできない。RP の心理学的な作用機序の解明を含めて、今後も引き続い  
て研究が必要である。

## おわりに

Skiba & Losen (2015) は、米国の学校区における生徒指導改革の主要な例として、進捗  
状況を次の通りまとめている。

- ・メリーランド州ボルティモア市： 2008 年から、市公立学校では、特にマイナーな違  
反に対する排除的な指導を減らして、学区全体で PBIS を実施した。10 年前と較べると停  
学は約 3 分の 2 減少した。(2004 年に 26000 件、2013 年には 8600 件)

- ・シカゴ市： 2012 年に行動規定を変更して、停学を減らす方向へ。修復的な実践を促  
進。2014 年、停学・退学減少計画を発動した。

- ・デンバー市： 2005 年から特定のパイロット校において修復的アプローチを実施。2006  
年から 2013 年にかけて、停学率は 10.58%から 5.63%に減少した。

- ・カリフォルニア州オークランド市： 2005 年から修復的アプローチを実施。停学率は  
87%減少した。この実践を広めて、2020 年には K-12 の全学校で実施する計画である。

- ・カリフォルニア州ヴァレジョ市： 2011 年、修復的アプローチと SW-PBIS、  
Positive Youth Justice Initiative を実施。2010-11 年度に停学 7200 件から、2014-15 年度に

2604 件に減少した。

以上のように、米国では停学などの排除的な指導を減らし、よりポジティブな実践を増やそうという動きが各地で見られる。また、英国やオーストラリア、ニュージーランド、カナダなどの学校 (Evans & Vaandering, 2016 ; 松山, 2018) で既に RP が採用されている。しかし、RJ が入ってきてても従来の司法の枠組み自体はすぐに無くなるわけではない。同様に、ポジティブ生徒指導が導入されても、ゼロトレランスや停学が急に学校から消え去ることはない。

最後に、本稿の内容を整理しておこう。本稿ではまず、RP という理念や方法の学校への導入に至る経緯を述べ、米国での具体的な実践などを紹介した。近代司法制度における被害者の立場への配慮を求める動きを背景に、RJ が登場してきた。これは、法を破った人は法の定めによって罰を受けるという仕組み自体を無くそうというのではない。警察や裁判所、刑務所などが無くなるわけではない。従来の司法制度に RJ が加わって、被害者の救済と加害者の社会復帰も助けようとしているのである。

一方、学校教育においては硬直的なゼロトレランスへの反省と、ポジティブ生徒指導の隆盛がある。米国では規律指導に広く「ゼロトレランス」が適用されてきた。反面、年間 300 万人以上の子どもを停学させて、貴重な教育機会を奪っていると批判されてもいる。そこで、PBIS や修復的な実践 (RP) が注目されている。RP は、既に生じてしまった害悪の修復をすると同時に、予防的・開発的な指導を重視したポジティブ生徒指導を志向している。

このような動きは、1990 年代以降のポジティブ心理学の動向とも合致している。また、例えばブリーフセラピーにおける理論的展開とも通じるものがある。ブリーフセラピーの理論は、かつての問題志向アプローチから、1980 年代に登場した解決焦点化アプローチ (SFA) へと、関心がシフトしている。前者では、クライアントの抱える問題を探し出して、それを変えるように働きかけようとしていた。一方、SFA では、もはや問題を見ないで、解決を直接構築しようとする (デービス, T.E. & オズボーン, C.J. 2001)。そうすることで、問題は自然と目立たなくなっていくのである。

RP ではネガティブな感情も含めて扱っている現状に留意しておくべきである。何らかの害悪が生じた時に、その修復をしようとしたのが RP の起源 (RJ) なのである。そこでは当然、被害者の強烈な怒りや不満などの感情がからむ。しかし学校での RP、特にティア 1 では、ポジティブな感情の表出を推奨し、ネガティブな感情の表出は抑えたりリフレインする指導があっても良い。そうなれば、まさに「ポジティブ生徒指導」としての RP である。

ポジティブ生徒指導が登場したからと言って、罰や停学に頼る ZT が直ちに消え去ることはない。しかし、従来の罰則を中心としたゼロトレランスと停学処分から、よりポジティブで予防的・開発的な PBIS や RP へ。このような重心の移動は生徒指導上、大きな潮流と捉えることができるだろう。

## 注

1 マオリ族は伝統的に紛争をおさめるため、hui と呼ばれる特有の会合をしていた。被害者、加害者のほかに村の長老なども参加して話し合い、その後一緒に軽食を取るという形式だった。つまり、RJ の先駆けとなる実践である。

2 IIRP では、毎年 RP の研修を開催している（2日で 400 ドル、4日で 700 ドルという参加費である。）会場は米国内が多いが、近くではシンガポールで受けられることもあるようだ。熱心な地区では教員をこの研修に送り込むので、大規模な研修会が繰り返されている（竹原、2018 に詳しい）。

ここに2分の簡単な紹介ビデオがある。

<https://www.iirp.edu/about/who-we-are>

<https://www.iirp.edu/restorative-practices/what-is-restorative-practices>

3

<https://www.facebook.com/ArcadiaUnified/videos/%E2%80%A2digital-education-station:-restorative-practice/1941368689271049/> 2019.11.11.アクセス

4 ミネソタ大学の報告書 2013 年 「退学に直面しているミネアポリス公立学校区の生徒へ修復的实践を適用する」 Applying Restorative Practices to Minneapolis Public Schools Students Recommended for Possible Expulsion.

[https://www.legalrightscenter.org/uploads/2/5/7/3/25735760/lrc\\_umn\\_report-final.pdf](https://www.legalrightscenter.org/uploads/2/5/7/3/25735760/lrc_umn_report-final.pdf)

2019.11.8.

5 この他に、ファシリテーター用の書式や、合意書もある。

<https://education.mn.gov/MDE/dse/safe/prac/resprac/> 2019.11.8.アクセス

6 なお、この地域では「アサーティブ・ディシプリン」（Assertive Discipline）と呼ばれる規律指導の方策が広く採用されていた。アサーティブ・ディシプリンはカンター、L の提唱する方法である。児童生徒に教員が自分の指示を明確に伝え、学級の学習環境を保つことを強調する。

7 RPI(I は intervention)とは、国際組織 IIRP が 1999 年に示した 11 の要点をおさえた RP 実践。なお、実施校の教職員は、IIRP が認証するトレーナーの研修を 2.5 日間にわたって受け、その後も IIRP のスタッフが随時サポートした。また、これら 2 件の研究では、非実施校も、その後 RP を実施している。

## 文献

Acosta,J.D., 2019 Promise and pitfalls of restorative practices for promoting positive school climate and youth development. IIRP Global conference, May 15, Kortrijk, Belgium.

Acosta,J.D., Chinman,M., Ebener,P.,Phillips,A.,Xenakis,L. & Malone,P.S. 2016 A Cluster-Randomized Trial of Restorative Practices: An Illustration to Spur High-Quality Research and Evaluation. *Journal of Educational and Psychological Consultation*, 26, 4, 413-430.

有門秀記 2009 トラブルを解決するピア・リンク・ミディエーション 市川千秋(監修) 臨床生徒指導ー理論編 ナカニシヤ出版

Augustine,C.H., Engberg,J., Grimm,G.E., Lee,E., Wang,E.L., Christianson,K.,& Joseph,A.A. 2018 Can Restorative Practices Improve School Climate and Curb Suspensions? An Evaluation of the Impact of Restorative Practices in a Mid-Sized Urban School District.

[https://www.rand.org/pubs/research\\_reports/RR2840.html](https://www.rand.org/pubs/research_reports/RR2840.html) 2019.12.3.アクセス

Bazon, L. 2019 Oakland Demonstrates Right Way to Use Restorative Justice With Teens. *Youth Today*. 2019.1.3.

<https://youthtoday.org/2019/01/oakland-demonstrates-right-way-to-use-restorative-justice-with-teens/>

2019.11.6.アクセス

デービス,T.E.&オズボーン,C.J. 市川千秋・宇田光(監訳) 2001 学校を変えるカウンセリング 金剛出版

Drewery, W. 2004 Conferencing in schools: punishment, restorative justice, and the productive importance of the process of conversation. *Journal of Community & Applied Social Psychology*, Sep/Oct2004, Vol. 14 Issue 5, p332-344. 13p. DOI: 10.1002/casp.800.

Evans, K. & Vaandering, D. 2016 *The little book of restorative justice in education: Fostering responsibility, healing, and hope in schools*. New York: Good Books.

Flannery,M.E. 2014 Sowing Empathy and Justice in Schools Through Restorative Practices. *NEA Today*, JUNE 18, 2014

<http://neatoday.org/2014/06/18/sowing-empathy-and-justice-in-schools-through-restorative-practices/>

2019.11.10.アクセス

平墳雅弘 2014 子どもが解決！クラスのもめごと 太郎次郎社エディタス

加藤十八 2000 アメリカの事例から学ぶ学校再生の決めてーゼロトレランスが学校を建て直した 学事出版

加藤十八 2009 生徒指導の実践ーゼロトレランスが学校規律を正す 市川千秋(監修) 学校心理学入門シリーズ3ー臨床生徒指導 ナカニシヤ出版 Pp.95-108.

松山康成 2018 学校におけるリストラティブ・ジャスティスに基づく実践の実際:イギリスの学校現場の視察から 学習開発学研究 11号、89-97.

McCluskey, G., Lloyd, G., Kane, J., Riddell, S., Stead, J., and Weedon, E. 2008 Can restorative practices in schools make a difference? *Educational Review* 60, 4, 405-417.

Mooiman, L. 2019 How to Integrate Restorative Practices and PBIS in Schools .  
<https://www.iirp.edu/news/2019-iirp-europe-conference-community-well-being-and-resilience>  
2019.11.10.

Skiba,R.J. 2000 Zero Tolerance, Zero Evidence : An Analysis of School Disciplinary Practice. <https://curry.virginia.edu>

Skiba, R.J. & Losen, D.J. 2015 From reaction to prevention: Turning the page on school discipline. *American Educator*, Winter 2015-2016. 4-12.

スミス,P.K. 森田洋司・山下一夫(総監訳) 2016 学校におけるいじめ—国際的に見たその特徴と取組への戦略 学事出版

ストーモント、M. ,ルイス,C.J.,ベックナー,R.、ジョンソン,N.W.著 市川 千秋・宇田光(監訳) 2016 いじめ、学級崩壊を激減させるポジティブ生徒指導(PBS)ガイドブック—期待行動を引き出すユニバーサルな支援 明石書店

Sumner, M. D., Silverman,C.J. & Frampton, M.L. 2010 School-based restorative justice as an alternative to zero-tolerance policies: Lessons from West Oakland. Thelton E. Henderson Center for Social Justice, University of California, Berkeley, School of Law.

2019.11.11.アクセス

笹尾幸夫・宇田 光 2019 PISA2015 の調査結果から読み取る我が国の理科教育に関する一考察 南山大学教職センター紀要 4号 1-16.

鈴木憲治・鈴木庸裕 2018 「修復的対話」を学校内の問題解決手法として浸透させるための方策に関する試行 福島大学総合教育研究センター紀要第25号 81-88.

竹原幸太 2018 教育と修復的正義—学校における修復的实践へ 成文堂

Thompson,F & Smith,P.K. 2011 The Use and Effectiveness of Anti-Bullying Strategies in Schools. DFE-RB098 London: DfE

宇田 光 2016a 米国における学校安全への対応(1) —銃対策を中心に— 南山大学教職センター紀要 1号 15-29.

宇田 光 2016b 「米国の中学校における PBIS の実践 市川千秋監修 宇田光・渡邊賢二編 生徒指導士入門テキスト2 — 学事出版 Pp.6-9

宇田 光 2019 米国における学校安全への対応(3) —ゼロトレランスと停学・「隔離」の抑制 南山大学教職センター紀要 4号 17-30.

宇田 光・市川千秋・松山康成・工藤 弘・福井龍太・有門秀記・西口利文 2016 ポジティブ生徒指導の動向(2) —PBIS の理論と実践を中心に 日本教育心理学第58回総会論文集 22-23.

U.S. Department of Education, 2014 Guiding Principles: A Resource Guide for Improving School Climate and Discipline.

<https://www2.ed.gov/policy/gen/guid/school-discipline/guiding-principles.pdf> 2019.11.28.ア

クセス

ワクテル、T. (山本英政訳) 2005 リアルジャスティスー修復的司法の挑戦 RJ 叢書  
第2巻 成文堂

Weingarten, R. 2015 Moving past Punishment toward Support. *American Educator*, Winter  
2015-2016. p1.

宿谷晃弘・竹原幸太 2018 いじめ予防における修復的アプローチの可能性に関する  
覚書 東京学芸大学紀要人文社会科学系. II 69: 127-164.

<https://core.ac.uk/download/pdf/147914990.pdf> 2019.11.8.アクセス

山辺恵理子 2011 修復理論における「正義」概念 —関係性の構築と修復に主眼を置  
いた教育実践をめぐる議論を手掛かりに— 東京大学大学院教育学研究科紀要 51 号  
63-70.

山下 英三郎ほか 2011 学校における修復的対話プログラム導入に関する研究 科  
学研究費助成事業研究報告書

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-21330139/> 2019.11.8.アクセス

吉田卓司 2008 生徒指導と修復的司法— いじめ事件における VOM の活用 — 大  
阪教法研ニュース 第232号